

368 ガンマーカウンター精度管理プログラム
日比野正明、青柳良人、八須賀淳（アロカ株式会社）
喜多村道男（帝京大学構の口病院）

多検出器内蔵型オートウェルガンマシステム
(ARC-600, ARC-1000) 精度管理用プログラムの
仕様・運用方法について報告する。

ガンマーカウンタの点検時に得られたデータ(感度比、
BKG値、計数率の日差再現性、同時再現性、電源電圧、
温度、湿度)を入力し、記憶媒体(F·D等)に記憶・保存し
ます。各種精度管理項目のデータは、点検を一週間に
一回程度としますと一年分以上の記憶が可能です。記憶
されたデータから経時変化をグラフにしたり、点検
データが管理限界内に入っているかをチェックする等
の機能があります。

369 エリスロポエチン・コートリアの基礎的検討
三浦博、伊吹幸男、近江昭一、築野元、山畠尚美、
風早康弘（シーアイエス ダイアグノスティック）

エリスロポエチン(EPO)の試験管固相法による1ステップIRMAキットがビオメリュー社で開発された。本キットを導入するために基礎的検討を行った。

1)検体量は200 μl、反応条件は室温、振盪3時間が最適であった。2)測定感度は2.2mIU/ml であった。同時再現性(CV値: 2.8 ~ 8.8%)、日差再現性(5.9 ~ 10.1%)とも良好であった。3)添加回収率は91.4~109.7%であり、希釈直線は原点に収束した。4)本キットは天然型EPOと組み換え型EPOとを同等に認識した。一方フック現象は50IU/mlまで認められなかった。5)健常人(n=22)のEPO値は10.5±6.1(m ± SD)mIU/ml であった。6)既存のRIAキットとの相関は良好であった。以上のことから本キットは臨床の場で十分使用できるものと判断された。

370 エンドセリン-1 測定用試薬「栄研」の基礎的検討

伊藤 正雄、大野智昭、石橋 嘉一郎

（栄研化学株式会社 研究開発本部）

エンドセリン(ET)は21個のアミノ酸からなる新しい血管作動性ペプチドであり、血中濃度を測定することによる、病態生理的意義の解明が試みられている。今回我々はETのファミリーペプチドのうち、ET-1の測定用試薬を開発し、基礎的検討を行ったので報告する。

本法は二抗体PEG法を用いたラジオイムノアッセイである。測定範囲は1.0~1280 pg/ml(1~128 pg/tube)であり、最小測定感度は7.7 pg/ml であった。再現性(C.V. %)はアッセイ内で2.4~7.6%であった。交差性はET-2とは30.7%，ET-3とは0.002%以下、Big ET-1とは59.8%，ANP及びBNPとはいずれも0.002%以下であった。Andoらの方法に準じて正常検体17例を抽出し、本法で測定したところ平均4.4 pg/ml であった。

371 Pepsinogen I/II RIA・BEADの検討
須栗 真、新井宏育、広瀬信長、飯沼一茂、茗荷昭男、池田
勲夫、倉田邦夫（ダイナボット株式会社） 三木一正、
黒川 清（東京大学 第一内科）

渡辺千之、隅井浩治、梶山悟朗（広島大学 第一内科）
ペプシノゲン(Pepsinogen)は、胃液中の蛋白分解酵素ペプシン(Pepsin)の不活性前駆体であり、免疫学的にペプシノゲンI(PG I)およびペプシノゲンII(PG II)に分類される。近年、血中PG IおよびPG IIの測定は萎縮性胃炎や胃癌、胃ポリープ等の胃粘膜の萎縮を伴う疾患の指標として有用であると報告されている。

今回我々は、ヒト胃粘膜より精製されたPG IおよびPG IIに対するモノクローナル抗体を作製し、それらを用いたIRMA法を開発したので、その基礎的検討成績について報告するとともに、若干の臨床データを紹介する。